



2021年12月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第192号

佐藤節子クラブ会長	今だからこそ、一步前進！ ～魔法のポジティブノートをつくろう～	会長 佐藤節子 副会長 石井芳隆 副会長 小松仲史 会計 森田智重子 書記 川口知幸 書記 徳澤洋子 監事 小林 秀 担当主事 阿部正伴
主 湘南・沖縄部部長	咲かそう 人の輪～明るく・楽しく・元気よく～	
東日本区理事	私たちは 次の世代のために 何ができるか？	
題 アジア太平洋地域会長	100年を越えて変革しよう	
国際会長	世界とともにワイズメン	

私たちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。
ヨハネの手紙（第一）4：19～

YMCA 報告

会長報告

ハッピーバースデー

閉会点鐘

阿部担当主事

佐藤節子会長

佐藤節子会長

魔法のポジティブノート

初めての料理教室 川口知幸

11月の厚木Y祭の中で行われました2回のオンラインによる「留学生による世界の料理教室」に参加いたしました。たいへん、楽しかったです。

第1回 11月20日（土）11:00～12:00

ネパール料理：キール（甘いお米のプディング）
ピクルス（野菜の漬物）

第2回 11月27日（土）11:00～12:00

フィリピン料理：アドボ（肉や野菜をお酢で煮込んだ料理）

第1回のネパール料理では生徒のみなさまとキールとピクルスを作りました。ピクルスはジャガイモをふかしておらず、生徒のみなさまと同時に作ることはできませんでしたが、両方ともおいしくできました。キールはお米の煮立てが少なく、少し芯が残る出来栄でしたが、イタリア料理のリゾットのようでおしかったです。

第2回目のフィリピン料理は当日スケジュールが立て込んでおり、生徒のみなさまと一緒に作ることはできませんでしたが、作り方を教えていただきましたので、覚えていた手順で次の週に、初めて一人でアドボを作りました。教えていただいた材料では塩を使うことになっていましたが、砂糖でもよいと

12月22日 本例会の予定

18:30～20:00 ZOOM&対面にて開催

会場：厚木アミュー604号室

- ・司会 川口知幸 書記
- ・開会点鐘 佐藤節子 会長
- ・ワイズソング・ワイズメンの信条 佐藤節子 会長
- ・今月の聖句 川口知幸 書記
- ・感謝の祈り 小林 秀 監事
- ・ゲスト・ビジター紹介 佐藤節子 会長

★クリスマスをお祝い

- ・クリスマスのお話 川口知幸 書記
- ・サプライズ 徳澤洋子 書記
- ・クリスマスソングを合唱 全員で歌う
- ・お菓子のプレゼント

例会データ	11月	在籍会員	12人
会 員	10人	メイキャップ済み	
ビジター	2人		0人
ゲ ス ト	0人	出席率	83.3%
合 計	12人	ロバ	0円

聞いていましたので、血圧の高い私は砂糖で作ってみました。水も少し多めに入れて作りましたら、非常においしいアドボができました。初めて鶏肉のモモを処理しましたが、皮をどうしてよいかわからず、全部取り除いてしまいました。オリジナルの半分の量になってしまいましたが、鶏肉の臭みがなくなり、おいしかったです。

11月24日 ZOOM 本例会報告

☆11月本例会プログラム ZOOM との併用
アミュー614号室

- ・司会 川口知幸 書記
- ・開会点鐘 佐藤節子 会長
- ・ワイズソング・ワイズメンの信条 佐藤節子 会長
- ・今月の聖句 川口知幸 書記
- ・感謝の祈り 小林 秀 監事
- ・ゲスト・ビジター紹介 佐藤節子 会長
- ・今月のお楽しみ 佐藤節子 会長

楽しく 脳トレゲームにトライ♥

さあ みんなで 楽しみましょう♥

○諸報告

- YMCA 報告 阿部正伴 担当主事
- 会長報告 佐藤節子 会長
- 魔法のポジティブ一言報告 メンバー 各位
- ・今月のお誕生日 佐藤節子 会長
- ・閉会点鐘 佐藤節子 会長

厚木 YMCA 報告

チャリティランについて 健康ウォーキング

厚木 Y 祭について 11月23日

会長 報告

部協議会が11月27日のため後日報告

会員から

母の証言 (岡山大空襲) 川口知幸

1944年(昭和19年)11月25日

次男誕生。身重であろうと、産後であろうと、一週間に二回の防空演習には参加しなければならない。バケツ・リレー、消火訓練と私は赤ん坊をおぶって参加した。隣組と言って近所5、6軒が一組となり、

組長さんが指揮を取っていた。食料から、一切が配給の制度、組員が交代ですること、食料は一週間に三回ぐらいで、ねぎ2本、大根1/4、白菜1/4ぐらいというわずかな量。肉や魚は一ヶ月に一回ぐらい。とても足りないで農家に買出しに行くが、高級な衣類でも持っていかないと、売ってくれない。東京から行った人は知り合いがなくて、みんな不自由な思いをした。まきの配給は駅の貨車まで車で取りに行く有様。車を引いたことのない奥さんは悩まされました。協力しないと隣組からつまはじきされる。出来ないときは他の人に頼んで、代理に出してもらわなければならない。当時家族は3歳の長男と、赤ん坊の四人暮らし。

1945年(昭和20年)2月ごろ

空襲もだいぶ広がり、岡山も騒がしくなり、防空演習はだんだん激しくなり、主人も徹夜が多くなり、田舎の方へ疎開する近所の人も出てきた。そのため、民家の大きい家が空き家になってきた。その後を会社が社宅として借りていく。

1945年(昭和20年)4月

4月末、岡山医大の学生さんが2人尋ねてこられ、部屋を貸して欲しいとのこと。主人も徹夜が多いので、ちょうど良いと思い学生さんに二階の部屋を貸すことにした。主人が相変わらず徹夜でしたので、空襲のときは心強かった。

1945年(昭和20年)6月29日

夜中の2時ごろ、主人は徹夜の仕事で不在。ものすごい「バリバリ。ザア。」という音で目が覚めて、玄関へ出たら、町の真ん中は火の海。警報も鳴らない突然の空襲。あわてて、枕もとにいつも置いてあるオムツ二組と貯金通帳を身につけ、赤ん坊をおぶい、3才の長男を抱えて、玄関へ出たら、2階の学生が2人トランクを持って下りてきた。一人の学生さんに長男をおぶってくださいと頼んだら、快く承知してくれました。学生さんのトランクを庭の防空壕に入れて、私たちも防空壕に入ろうとしたら、隣組の組長さんの大きな声。「逃げろ。逃げろ」と叫んでいました。みんなの後について、南の田んぼの方へ夢中で歩きました。南へ南へ、人家のない田んぼはちょうど蟻の行列のようでした。頭の上から火の玉がバラバラと落ちてくる中をくぐり抜け、体

中がガタガタ、足はすくみ、生きた心地がなかった。どのくらい時間が経ったのかわからない。無我の状態で歩いた。広い畑に着いたが回りは火の勢いが強く、飛行機の音が聞こえると、誰言うともなく、「伏せろ。伏せろ。」の声。私は背中に赤ん坊を負っている。伏せたら子どもが危ない。長男を前に抱いて、できるだけ姿勢を低くして、しゃがんだ。不安で身体はガタガタ、生きた心地がしなかった。空襲が終わり、夜が明けたら、ものすごい雨。岡町の人にはあの一軒焼け残った天理教の教会へ避難せよとの命令。そのときにはどこへ行ったのか学生さんはもういない。立ち上がったがショックで歩き出せない。長男の手を引いてやっと避難所に着いた。ほっとする間もなく、若夫婦が3ヶ月ぐらいの赤ちゃんを抱いてきて、「お乳を飲ませてくださいませんか」と言われた。泣いている小さな赤ちゃんの顔を見たら、かわいそうで思わず、乳首を出していた。私も6ヶ月の次男にお乳を上げなければならない。そこで、片方のお乳をその赤ちゃんに、もう片方のお乳を次男にふくませた。その赤ちゃんはおながよほど空いていたと見えて、乳首をチュウチュウと強く吸うので痛くてしょうがなかったことを憶えている。若夫婦は突然の空襲でミルクも持たずに逃げてきたらしい。昼ごろ、子どもだけにおにぎりが一個配られた。夕方にはおとなにも一個のおにぎりが配られた。夕方、主人が安否を尋ねて避難所に来た。無事を知ると直ぐに職場に戻っていった。工場も火事になり、たくさんの人が死んだらしい。自分ひとりでこの子どもたち、二人を守らなければならないと思った。この二人の子供がきっと私を奮い立たせて、力づけてくれたのかもしれない。

1945年(昭和20年)6月30日

翌日、主人が来て、家が全部焼けてしまったので、とりあえず、上司の社宅が焼け残ったので、そこの二階に住まわせてもらうことになった。上司の家は駅の北にあったので、南にあった避難所から町の中心を歩いていくことになった。町に入ったとたん、道の傍にむしろを敷き、警防団の人が防空壕の中で蒸し焼きになった人を引きずり出して、むしろの上に並べている光景が目に入った。防空壕の中で水浸しになっていたのも、顔、手足は水ぶくれで、見る

影もなく無残な姿であった。少し行くと、リヤカーに荷物を積んでここまで逃げてきたのであろうかりヤカーのさおにつかまったまま、丸焼けになっていた。男の人であるということしか確認できない。身はきつね色、さわったら多分プツプツと崩れてしまうのではないかと思い、思わず目をそむけてしまったが、ただ手を合わせるしかなかった。これが地獄というものかと感じた。その時思いました。私もあの時防空壕に入っていたら、きっとこのような状態になっていたのではないかと背筋に冷たいものが走った。真夏の太陽はぎらぎら犠牲者を照り付けていた。かわいそうに早く家族か親戚の人にほおむってもらえたらと祈る思いであった。

ちょうど爆心地にあった天満屋デパートの地下に逃げた人はみんな蒸し焼きになった。

空襲警報が遅かったので、近くの方は地下に逃げ込んだため多くの方が犠牲になった。私のように郊外の田んぼに逃げているなら、助かったのではないかとかわいそうに思った。

私たちはオムツ2枚と通帳だけで、家も家具もすべて失ったが、命だけは助かった。

家の玄関のところに生えていた大きな木が燃え尽きていた。焼夷弾の火力がいかに強かったか。隣の庭には6尺四方もある大きな穴。爆弾が落ちたのかもしれない。

1945年(昭和20年)7月

着替えもないので、実家の伊勢原に戻ってきたが、自動車は鈍行。空襲警報が鳴れば、どこで止まっても動かない。車内は通路にも重なり合う。窓から出入りしかしない。岡山から小田原まで赤ん坊をおぶって立ちどうし、良く耐えてこられたか自分ながら感心している。

現在

今戦争が起きたらこんなことでは済むまい。戦争は絶対にしてはならない。生き延びた証人が叫ぶ。8月15日の終戦記念日になると、空襲のことを思い出し、あの時長男をおぶって助けてくれた医大の学生さんのことを思い、いまどうしていただけるのかあのお礼を言いたい。今はきっと立派なお医者さんになって多くの人を助けておられると思っています。天満屋のデパートの地下で蒸し焼きになった

人、数知れず頭のなかに焼きついて8月15日の終戦記念日はむなしい一日となる。

2006年11月7日 川口アイ
「厚木YMCAの平和を祈る会」での証言

部評議会 (11月27日)

横浜 YMCA とワイズ合同新年会 新型コロナ過のため中止。

次年度より、部 CS 支援金は 廃止になります。

事務会報告 (12月11日)

1月より事務例会開始は17時に変更します。一人でも多くの方が参加しやすい時間を検討しました。部SC支援申請について検討して再提出することになります。1月～6月までのプログラム内容を協議しました。12月例会に部長公式訪問があります。

第33回東日本ユースボランティア・リーダーズ ・フォーラム 参加報告

2021年9月11日(土)・9月12日(日)
ZOOMでの開催

厚木YMCA 佐藤日花里(クッキーリーダー)

今回の研修会に参加したきっかけは、厚木YMCAのスタッフから参加をしてみませんかと声をかけられ、自身のリーダー活動の成長へとつなげることができるのではないかと考えたためです。また、他のYMCAのリーダーたちと関わりをもつことで多くの意見やアイデアを交換する機会になると考え、参加させていただきました。研修会には横浜YMCAから10名、東京YMCA、とちぎYMCAからは5名ずつ、千葉YMCA、仙台YMCAから2名ずつ、盛岡YMCAからは7名の計31名のリーダーが参加しました。

《主なスケジュール》

一日目 グループディスカッション

・・・普段のリーダー活動で一番意識していること

二日目 基調講演「今、リーダーに求められること」
グループディスカッション

・・・①基調講演を聞いての感想・意見交換

②各地域YMCAでこれからやるべきことの話し合い、グループ発表

《基調講演で学んだこと》

今回の講演は「性」について深く学ぶことのでき

る機会となりました。現在でもジェンダーという線引きに苦しんでいる人たちは多く存在しています。そのような人たちは社会的に生きづらさを感じる場面もあり、自分らしく生きることが難しいときもあるということが理解できました。また、性に対して正しい知識を持っていないと、自分自身に悪気が無くても傷つけてしまう可能性があることも学びました。このことから自分が当たり前だと考えていることを見直していかなければならないと感じました。

私は学童のリーダーとしての活動を行っています。性についての問題は大人だけでなく子どもでも重要な問題だと考えています。例えば女の子だからかわいい、男の子だからかっこいいといった価値観を決めつけず、子ども一人一人の発言を注意していくことで実は自分の性に対して苦しんでいるということをリーダーが発見することができると思っています。また、子ども同士の会話にも着目すること重要と考えます。子どもが悪気なく話していた言葉が性差別に当たるようなものだった場合、そのような発言は相手を傷つけるものであるということをお話していきたいです。

《グループディスカッション》

ディスカッションは二日間かけて行いました。一日目は各YMCAのリーダー5、6人でのグループの中で意見交換を行いました。私は日々のリーダー活動で、いかに子供たちが傷つけあわないかを注意して見ていましたが、他のYMCAのリーダーは相手のことを傷つけることから学ぶこともあるとおっしゃっていました。このことから子どもへの対応の違いが自分とは違っているということが分かり、大変参考になりました。また、二日目は横浜YMCAに所属している厚木・戸塚・川崎・三浦・富士山の5つのYMCAでグループとなって話し合い、発表を行いました。この時間ではまず理想のリーダー像とリーダーを始めたきっかけを発表したり、各々のYMCAでの良さや魅力、個性などを話し合ったりしました。また、横浜YMCA全体で取り組むべきことを決め、ZOOM会議で横浜YMCAに属しているリーダー同士での意見交換、各YMCAで子どもと一緒に野菜を育てるといった農業体験、コロナ禍で大変な思いをしている医療従事者に向けての動画作成といった

主に3つの案がディスカッションで出されました。現在私は厚木YMCAのリーダー会（ハーモニ会）に属しているので、この3つの案をリーダー会で提案し、早めに実行に移していきたいと考えています。



《参加して得たもの》

私自身、以前はリーダー活動をしていて正解が分からず悩んでしまう時がよくありましたが、今回の研修会を通してたくさんのリーダーの意見を聞くことで少し自分の行動に自信をもって取り組むべきだと考えさせられました。また、リーダー一人一人が一番大事にしていることは違って、自分の狭い視野が広まる機会となったと思います。今回が初めて厚木YMCAという括りの中から出た活動だったので少し不安な点もありましたが、自分の意見を固めて話すことができた経験ができたためリーダー活動を以前より意欲的にすることができるのではないかと考えています。オンライン上での研修会ではありましたが、たくさんの知識や学びを得ることができました。このことを今後の活動に活かしていきたいです。

最後にこのような様々な出会いと学びがあった研

修会に参加できたのは、多くの方々の支えがあったからだと思います。この研修会に参加できたこと、改めて感謝を申し上げます。また今回の研修会はワイズメンズクラブの方々の協力のもと続いている研修会であります。ワイズメンズクラブの皆様、研修会もそうですが、前後の準備など含めて私たちリーダーがコロナ禍でありながらも多くの経験ができるようにサポートしていただき、本当にありがとうございました。この学びを私自身もこれからのリーダー活動で生かしていきたいと思っています。

厚木YMCA鳴海 空大（なるみ そらた）

これから第33回東日本ユースボランティア・リーダーズ・フォーラムの参加報告をさせていただきたいと思いますがその前に自己紹介を軽くします。青森県出身、大学二年生の鳴海空大です。リーダー名は「なるリーダー」です。よろしくお願ひします。ではまず初めに、参加したきっかけをお話しさせていただきます。

参加したきっかけは、PDの方からお声がけしていただいたことがきっかけです。私自身他のユースリーダーたちはどんな活動をし、どのような思いでリーダー活動をしているのか興味があったので第33回東日本ユースボランティア・リーダーズ・フォーラムに参加を決心しました。

今回はオンラインで二日間の開催になり土曜日は午後から、日曜日は午前中から参加させていただきました。

スケジュールは一日目が簡単な自己紹介、グループワークとアイスブレイク

二日目が平良さんによる基調講演とグループディスカッション、グループ発表でした。

一日目は、まずアイスブレイクをしました。アイスブレイクでは、とても簡単なゲームをいくつか行いました。例えば、否定の言葉を言ったら指示に従ってください、などです。とても簡単ですが、頭を使う。そんな感じのゲームをいくつかし、緊張をほぐしてくれました。

いくつかのグループに分かれ軽く自己紹介をしました。その後グループを変え何度か同じようなこと

をしました。自己紹介の内容は、所属、リーダー名、リーダーになったきっかけ、理想のリーダー像です。意外にも元々YMCAのメンバーだったという方が多く驚きました。

自己紹介の後に前回のリーダーフォーラムの際に作った「まる」という曲の振り付けをグループに分かれ一部ずつ考えました。先輩リーダーを筆頭に、作業は順調に進み、振り付けを考えることができました。

二日目は、平良牧師による（性）のお話を聞きその感想をグループごとに分かれて意見交換をしました。

今回のお話の中で、偏見は大人たちが作るという言葉が一番印象に残りました。私は現在金髪なのですが金髪の人を見て皆さんはどう思うのでしょうか？昔のヤンキーや不良などを想像する人が多いと思います。しかしメンバーたちからは天使だといわれることがありました。子供たちは、金色を見て天使といったんです。いつからその考えが変わるのか考えた時にやはり大人たちの影響が大きいと考えます。テレビでもヤンキーの髪色は金髪だったり金髪の人を悪役にしたりと悪いイメージを与えてしまっています。私たちの普段の行動からも偏見は生まれてしまいます。何気ない一言で子供たちに偏見を与えてしまうのです。それはリーダー活動の中でも起こりうることなので今後の活動もより一層言動に気を付けようと思います。以上で報告を終わります。

編集後記

第33回東日本ユースボランティア・リーダズ・フォーラムの参加報告が遅くなって申し訳ありませんでした。ZOOMの音声の録音からの聞き取りが難しく、何回聞いても聞き取りができない箇所がありました。阿部館長のお計らいで発表者から原稿をいただきまして、ようやく載せることができました。阿部館長と佐藤リーダーと鳴海リーダーに感謝申し上げます。ありがとうございました。（K）

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう
2. 青少年のために YMCA につくそう
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう
4. 義務をはたしてこそ、権利が生ずることをさとりょう
5. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

いざたて

1. いざ立て 心あつくし
手を挙げ 誓いあらたに
われらの モットー守る
ふさわし その名ワイズメン
絶えせず めあて望み
この身を 捧げ尽くさん
2. 歌えば 心ひとつに
ともがき ひろがり行きて
遠きも 近きも皆
捧げて 立つやワイズメン
栄えと 誉れ豊か
まことは 胸にあふれん